

# 山陰の経済

2006

2

No.245

地域の明日を切り拓く



調査

## 依然水面下ではあるが底打ちし、

## 緩やかながら回復する山陰の消費

山陰地方消費動向調査(平成十七年十二月)

### 活カするマネジメント

小松電機産業株式会社

代表取締役 小松 昭夫 氏

### 労務・人事の何でも解決塾

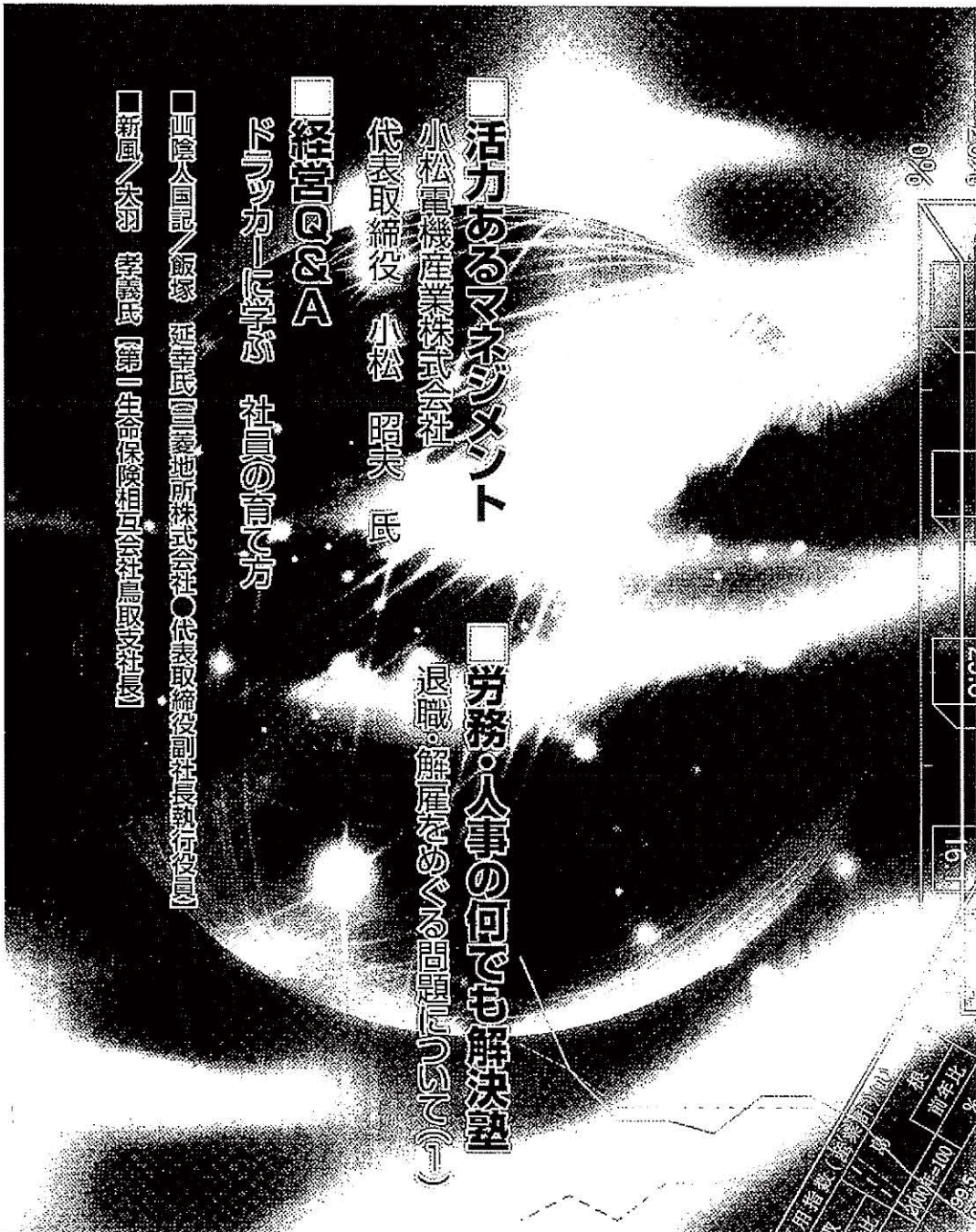
退職・解雇をめぐる問題について(1)

### 経営Q&A

ドラッグストアが 社員の言で芳

山陰人国記の飯塚 延幸氏(山陰地所株式会社代表取締役副社長執行役員)

新風の大羽 孝義氏(第一生命保険相互会社社員取寄社社長)



項目	前年比
消費動向	99.6%
貯蓄動向	100.0%
投資動向	100.0%
住宅動向	100.0%
自動車動向	100.0%
旅行動向	100.0%
娯楽動向	100.0%
教育動向	100.0%
健康動向	100.0%
その他	100.0%



(財)人間自然科学研究所と高次元でリンクした知的環境フィールドを構築し、天略経営理論に基づき地政学を活用した「ナレッジ・マネジメント(場の経営)」が必要とされる時代になっていると認識している。

#### 4. 「三現」+「二原」=「五ゲン主義」

本田技研工業㈱の故本田宗一郎氏は、経営においては「三現主義」が重要と唱えていた。これは、「現物」をみながら実際の「現場」に足を運び、そして「現実」を認識して議論しなければならない、という3つの「現」のことであり、机上の空論ではなく、現場に根ざした思考が経営者に求められるとするが、小松社長はそこからもう一歩進め、会社が前進するためには物事の「原理」と「原則」の二つの「原」を加味して議論・検討することが重要と考える。この「五ゲン主義」こそが当社から次々とブランドが生まれ、且つ、経営をぶれさせない要因と思われる。

#### 5. 経営理念は

「おもしろ おかしく 楽しく 愉快地に」

当社の経営理念は「おもしろ、おかしく、楽しく、愉快地に」である。これは、一見すると経営に関係ないようにみえるが、実はその裏にもづく



りの根本がうかがえる。

「おもしろい」や「おかしい」といった感情は、物事に主体的に取り組んでいなければ、湧き上がらない感情である。人に言われて仕事に取り組んでいるようでは探究心や向上心が生まれなため良い仕事ができない。だから「おもしろい」や「おかしい」といった感情は仕事に取り組む上で重要なことであり、常に新しいことに興味が湧き、果敢に挑戦して行こうという意味が込められている。

次に、「楽しく」というのは、物事を持続して行うために不可欠な感情である。楽しくなければ途中で疲れて飽きてしまい投げ出してしまふ。研究開発の場合、ヒット製品を生み出すためには長い試行錯誤の期間が必要であり、根気が要る。個人が社内・ライバル会社・市場・社会から認められることにより誇りが生まれ、「楽しく」感じる必要がある。

そして「愉快地に」というのは、顧客やライバル企業の創造を超えるようなことを次々と実現し、エンドレスのサイクルに入った時に感じる感情である。製品開発には創造性が不可欠、創造性の連続こそが持続的利益をもたらし、会社の業績拡大につながるのである。

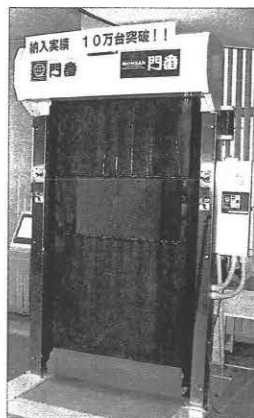
このように「おもしろ、おかしく、楽しく、愉快地に」という経営理念には「はつらつとした社風」の醸成が感じられる。

#### 6. 利益追求分野と地域貢献分野の両立

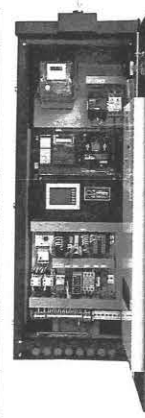
当社では、利益のみを追求する事業に限らず、歴史の評価に耐える人類進化という視点で天略経営・地政学理論に基づいた「昇華により社会環境問題解決事業」も手掛けており、平成6年に「健康・環境・平和」をテーマにした「HNS (Human Nature Science)人間自然科学研究所」を設立した。

HNS研究所では、地元の人々の心の中に誇りの生まれることを目的に、郷土の発展に貢献した人々の偉業を伝える書籍を発行したり、「論語」の日中英対訳版の発行やセミナーの開催を通じて平和推進活動などを行い、平成15年10月には島根県から財団法人の認可を受けている。

これらの各種活動が新しいビジネスチャンスをつくり、その新しいビジネスがまたHNS研究所の活動にもつながると小松社長は考えている。小松電機産業とHNS研究所は、それぞれ独立しているのではなく、お互いを支え合う関係で存在しており、利益を追求する分野と地域はもとより国内外に貢献する事業の両方を備えることが、これからの新しいビジネスモデルになるとの主張である。



▲門番



▲やくも水神

#### 7. 中海・宍道湖圏から世界へ情報発信

また、HNS研究所は、中海・宍道湖圏の地域開発、経済の発展を通じて新たな文化の創造を目指しており、「対立の文化から共生の文化へ」移行するため、平和への願いを込めた記念館の建設などを行う「環境健康平和特別区」の申請を昨年6月に国に提出するなど、世界への情報発信をす

る遠大な計画もされている。

さらに、本年3月10日には、くにびきメッセで特別シンポジウムの開催も予定されている。

本事業が地域にどのように貢献するのか注目したい。

#### おわりに

インタビューを通じて、最も印象に残ったことは、企業は、ものづくりによる利益追求だけに止まるのではなく、ものづくりを通じて社会貢献を果たさなければならないということであった。企業の色々な地域貢献活動が今後の地域活性化には不可欠だとする考えである。

当社はシートシャッター「門番」の開発で当地域におけるベンチャー企業の先駆けと言われるようになったが、今後は、HNS研究所の活動を通じ、社会貢献にも力を入れているモデル企業として注目されることになるだろう。

当社の業績の原点は、小松社長の経営哲学から生まれる時代の掌握力・構想力・先見性・決断力にあり、現場主義、原理・原則主義を貫きつつも、常に時代の先を見据えた人間のあり方を探求する姿勢にあると強く感じた。今後も当社の多様な活動に注目していきたい。

(担当：本末直巳、花井哲也)